

シンポジウム

プロレタリア芸術とアヴァンギャルド せめぎあう「物」と「身体」の1920-30年代

主催：立命館大学国際言語文化研究所、プロレタリア芸術研究会

日時：2010年3月1日（月）13：30-18：00 3月2日（火）10：00-17：00

場所：立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスーム(シンポジウム), 充光館301号(映画上映)

【プログラム】

2010年3月1日（月）

《開会挨拶》

Charles Fox（立命館大学国際言語文化研究所長）

《研究報告》

「回覧雑誌『密室』の画文共鳴—象徴主義とモダニズムの通路をめぐって」

木股知史（甲南大学）

「『美術』の進出—人形座にみる大正期新興美術運動の様態」

滝沢恭司（町田市立国際版画美術館）

「漫画からみるプロレタリア文化運動」

足立元（東京芸術大学）

「自慰と先端—『マヴォ』とその周囲」

野本聡（法政大学中学高等学校）

「首のない体／字面のない活字—印刷術総合運動『死刑宣告』の身体性」

村田裕和（立命館大学）

《ディスカッションⅠ》

コメンテーター：波瀲剛（九州大学） 司会：村田裕和

2010年3月2日（火）

《研究報告》

「『亜細亜詩脈』という場—1920年代朝鮮における詩雑誌のネットワーク」

楠井清文（立命館大学）

「『不逞鮮人』へのまなざし—1920年代初期の左傾テキストと映像における

コロニアル意識と批判」

アンドレ・ヘイグ（スタンフォード大学大学院）

《映画上映》プロキノと能勢克男の時代 1927-1937—ドキュメンタリーとアヴァンギャルドの越境

《研究報告》

「プロキノの研究史をめぐって—プロレタリア映画研究のポリティックスを踏まえる—」

佐藤洋（早稲田大学大学院）

「プロキノ作品における映像表現—『山宣告別式』『山宣渡政労農葬』を中心に—」

雨宮幸明（立命館大学大学院）

《ディスカッションⅡ》

コメンテーター：牧野守（映画史研究） 司会：内藤由直（立命館大学）

《閉会挨拶》

村田裕和（プロレタリア芸術研究会代表）



※上記はシンポジウム当日のプログラムであり、本号に報告が収録されていない場合もあります。